

ソーシャルワーク演習

[演習] 第3学年 通年 選択 2単位

《履修上の留意事項》「ソーシャルワーク実習・実習指導」を履修する学生は、必ず履修すること。
(過年度に単位修得済みでも、実習を履修する当該年度に本科目を聴講することが望ましい)
面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》 巻 康弘 大友 芳恵 奥田 かおり 中田 雅美 近藤 尚也 松本 望 片山 寛信

【概要】

ソーシャルワーク実践を形成する要素としてのソーシャルワークの価値、人間と環境、社会の把握と理解、ソーシャルワーク実践アプローチ、実践技法に関する知識とスキルを演習を通して学ぶ科目である。

【学習目標】

1. 相談援助場面において面接技法を活用した面接を展開することができる。
2. 相談援助場面において得られる情報からアセスメントを行うことができる。
3. 必要な社会資源を調整する方法の概説ができる。
4. 相談援助に必要な社会資源を活用・開発する方法の概説ができる。
5. 他職種との連携やネットワーキングの方法について説明できる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション(クラス別)	・ソーシャルワーク演習 の展開方法が説明できる。 ・記録技法について説明することができる。 ・事例情報をもとに、ソーシャルワークが向ける関心を説明できる。	巻、中田、近藤、松本、片山
2	インテーク・面接技法の統合	・コミュニケーションのポイント、面接の進め方のポイントを説明することができる。 ・インテーク場面における模擬面接において、面接をスムーズにすすめることができる。 ・他者が行う模擬面接で用いられている面接技術について説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
3	インテーク・面接技法の統合	・インテーク場面における模擬面接において、面接をスムーズにすすめることができる。 ・他者が行う模擬面接で用いられている面接技術について説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
4	実践を記録する	・実習日誌を記載する上でのポイントを説明することができる。 ・体験場面を日誌にまとめることができる。 ・プロセスレコードの概要について説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
5	アセスメント	・事例情報をもとに、ソーシャルワークの立場から関心を寄せるポイントを例示することができる。 ・事例情報をもとに、利用者のアセスメントにより主観的ニーズを説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
6	アセスメント	・事例情報をもとに、利用者のアセスメントにより主観的ニーズを説明できる。 ・事例情報をもとに、ソーシャルワークの立場から利用者の置かれている状況に関する情報の整理・統合を行うことができる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
7	アセスメント	・人間と環境の間で起きている問題について説明することができる。 ・客観的ニーズ判断ができる。 ・当面の援助目標と必要な情報へのアクセス方法を説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
8	アセスメントとチームアプローチ	・他職種にアセスメント報告を行う上でのポイントを列挙することができる。 ・模擬カンファレンスで他職種に報告できる。 ・判断根拠を説明することができる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
9	アセスメントとチームアプローチ	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種にアセスメント報告を行う上でのポイントを列挙することができる。 ・模擬カンファレンスで他職種に報告できる。 ・判断根拠を説明することができる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
10	社会問題を基盤とした相談援助演習（社会的排除）	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助事例を通して、事例にみられる複合的要因をアセスメントすることができる。 ・複合的困難課題への支援方法について概説できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
11	社会問題を基盤とした相談援助演習（マイクロ・メゾ・マクロ）	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロ・メゾ・マクロの各領域と連動性を説明できる。 ・事例をもとにマイクロ・メゾ・マクロレベルの視点から事例の持つ問題を産み出す構造を説明できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
12	相談援助における面接とアセスメント	<ul style="list-style-type: none"> ・面接を進めることができる。 ・アセスメントができる。 ・実習日誌が記載できる。 (OSCE不合格者に対する演習担当教員からの再指導)	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
13	チームアプローチ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで取り組む必要がある実践課題について説明することができる。 ・模擬事例をもとにチームアプローチ展開を説明することができる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
14	チームアプローチ演習	<ul style="list-style-type: none"> ・チームで取り組む必要がある実践課題について説明することができる。 ・模擬事例をもとにチームアプローチ展開を説明することができる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
15	自己理解と自己活用	<ul style="list-style-type: none"> ・OSCE体験時のプロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の思考を説明することができる。 ・自己の思考傾向を踏まえて、自己活用できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
16	実践を記録する	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら記載した実習日誌をもとに、焦点とした事実と解釈・考察の違いを明示できる。 ・実習日誌、実践記録を記載できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
17	地域福祉の基盤と開発	<ul style="list-style-type: none"> ・地域アセスメントのポイントを説明できる。 ・アウトリーチについて概説できる。 ・ネットワーキングについて概説できる。 	奥田、大友、巻、中田、近藤、松本、片山
18	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズについて説明することができる。 ・ニーズに即した支援展開を検討することができる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
19	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズについて説明することができる。 ・ニーズに即した支援展開を検討することができる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
20	対象別にみる相談援助演習	<ul style="list-style-type: none"> ・事例の持つニーズについて説明することができる。 ・ニーズに即した支援展開を検討することができる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
21	事例研究（個別援助の理解・地域福祉研究）	<ul style="list-style-type: none"> ・実習体験を想定した事例研究（個別援助の理解・地域福祉研究）の方法を概説できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
22	実習体験の一般化	<ul style="list-style-type: none"> ・実習で体験したディレンマの構造分析と対処方法について列挙できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
23	自己理解と自己活用	<ul style="list-style-type: none"> ・実習体験時のプロセスレコードをもとに、利用者との関係における自己の思考を説明することができる。 ・自己の思考傾向を踏まえて、自己活用できる。 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
24	事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が提出した事例研究（個別援助の理解・地域福祉研究）、プロセスレコードをもとに、ソーシャルワーク支援について考察することが出来る。 ・ジェネラリストソーシャルワークの視点からソーシャルワーカーの機能と役割が説明できる。 	奥田、大友、巻、中田、近藤、松本、片山
25	事例検討	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が提出した事例研究（個別援助の理解・地域福祉研究）、プロセスレコードをもとに、ソーシャルワーク支援について考察することが出来る。 ・ジェネラリストソーシャルワークの視点からソーシ 	大友、巻、中田、近藤、松本、片山

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
		ャルワーカーの機能と役割が説明できる。	
26	事例検討	・学生が提出した事例研究（個別援助の理解・地域福祉研究）、プロセスレコードをもとに、ソーシャルワーク支援について考察することが出来る。 ・ジェネラリストソーシャルワークの視点からソーシャルワーカーの機能と役割が説明できる。	奥田、大友、巻、中田、近藤、松本、片山
27	ソーシャルアクション	・ミクロからマクロレベルのソーシャルワーク実践の実際を説明することができる。 ・地域における生活支援と政策提言の実際について説明することができる。（ワークショップによる体験的学習）	藤田孝典（特別講師） 大友、巻、中田、近藤、松本、片山
28	ソーシャルアクション	・ミクロからマクロレベルのソーシャルワーク実践を説明することができる。 ・ミクロレベルの課題を踏まえたメゾ・マクロレベルへのアプローチを例示することができる。（ワークショップによる体験的学習）	藤田孝典（特別講師）大友、巻、中田、近藤、松本、片山
29	事例検討	・学生が提出した事例研究（個別援助の理解・地域福祉研究）、プロセスレコードをもとに、ソーシャルワーク支援について考察することが出来る。 ・ジェネラリストソーシャルワークの視点からソーシャルワーカーの機能と役割が説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
30	組織・社会への働きかけ	・ソーシャルワーカー組織や社会に対し働きかけていく必要があると考える課題を例示の上、ソーシャルワーカーの果たす実践現場や社会に対する倫理責任を説明できる。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山
31	組織・社会への働きかけ ソーシャルワーク演習3年間のまとめ	・ソーシャルワーカー組織や社会に対し働きかけていく必要があると考える課題を例示の上、ソーシャルワーカーの果たす実践現場や社会に対する倫理責任を説明できる。 ・ソーシャルワーク演習3年間のまとめ。	大友、巻、中田、近藤、松本、片山

【評価方法】

レポート60% 授業への主体的参加度40%。

【備考】

教科書：八木亜紀子『相談援助職の記録の書き方』中央法規。

フェリックス・P. バイステック、尾崎 新・原田 和幸・福田 俊子(訳)『ケースワークの原則(新訳改訂版)』誠信書房。

その他：演習という科目の性格上、個人の遅刻が全体の学習の妨げとなるため、遅刻は欠席扱いとする。

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「相談援助演習」、精神保健福祉士国家試験受験資格取得のための「精神保健福祉援助演習(基礎)」に該当する。

教職課程(福祉)では、教科に関する科目の「社会福祉総合実習(社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。)」に該当する。

【学習の準備】

演習で取り上げる支援困難事例にかかわる社会の背景や要因に関して、グループ発表できるよう調べ準備しておくこと。

専門用語の意味を理解しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2、3

【実務経験】

巻 康弘(社会福祉士)、大友 芳恵(社会福祉士)、奥田 かおり(ソーシャルワーカー)、中田 雅美(社会福祉士)、近藤 尚也(社会福祉士)、松本 望(社会福祉士)、片山 寛信(社会福祉士)。

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、社会福祉施設・機関でのソーシャルワーカー(社会福祉士)としての実践経験を通じて得た、価値・知識・技術を活用し、実践的教育を行う。